

公同礼拝

2025年2月9日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 本多友子

前 奏

招 詞 詩編 58編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

創世記 9章1～7節 (旧11)

マタイによる福音書26章47～56節

(新54)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 10

説 教 「剣を捨てて」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 291

献 金

頌 栄 539

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

2月の祈り

主が共におられることに支えられ、今のこの時代に信仰によって生かされている、その恵みを感じることができるように。

新たな歩みに進み出す若い人々が主の愛と人々の祈りに力付けられるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるように。

世の指導者たちが神をおそれ正しい判断をすることができるように。

今日の祈り

ひとりひとりの名が呼ばれ、召し出されて主のみ前に招かれている礼拝の恵みを感じるように。

心と眼をあげ、地上のものにとらわれず、上にあるものを求めることができるように。

寒さ厳しい中であって、病を負い、弱っている人々が守られ、力づけられるように。

愛する者を主の御許に委ねた兄弟姉妹に主のみ手による慰めが与えられるように。

「剣を捨てて」 高橋和人

マタイによる福音書26章47～56節

主イエスは祈りから立ち上がり、祈りの園から出て、裏切りの場面へと向かう。どの受難記事も驚くほど厳密で詳細だ。主の御受難の一步一步は救いの内容にかかわっている。一つも欠かすことはできないと証言者たちに記憶され記録された。

ユダと世の指導者に遣わされた群衆が来た。神の民でありながら、神の御子を受け入れない者達だ。それもまた裏切り。

ユダは裏切りにふさわしく振舞う。親しみを込めた挨拶がしるしとなった。挨拶には喜びの字が

使われ、接吻も「愛する」が使われている。巧妙な仮面だ。

主はユダを「友」と呼び、「しようとしていることをするがよい。」と言われる。主イエスは彼の計画を進めさせる。神が愛する世は神から離れようとしてきた。人々は進み、主イエスに手をかけて捕らえた。主は抵抗されなかった。

その時、主イエスと共にいたものが、剣を抜き大祭司の手下に打ちかかり、片方の耳を切り落とす。主は「剣を取るものは皆、剣で滅びる」と言われる。

主は力による解決、力には力を拒否される。それは際限がない。ご自分は天使の軍団を送ってもらえると言われる。しかし主が求められるのは、力の行使ではなく、聖書の言葉の実現、聖書に示された御心の実現である。

聖書(旧約)は神と人との書である。天地創造から、墮罪、選びと契約、裁き、救いと解放、預言と終末の壮大な内容である。主イエスは聖書に示された神の御心の成就のために神の子として受難の僕の道を進まれる。

主イエスはこれまで群衆に座って教えられてきたことを語る。しかし今、罪人たちの手に渡され、その人々の手によって苦しみを受け、その罪を負われることによって、神の御心である救いの成就を果される。

この主の捕縛の時、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げた。それは彼らの弱さの現れだ。主はそのような人間的なものを負われている。

主イエスの受難の最初は弟子たちに見捨てられることであった。見捨てられるものとなるのが人の痛みを最も確かに負うことになる。